

[R8]全国学力・学習状況調査結果 説明資料

札幌市立東川下小学校

4月に全国の6年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の調査結果について、札幌市教育委員会より調査結果の概要が発表されました。これを受けて、本校の結果の概要についてお知らせします。この調査結果は6年生の結果ではありますが、他の学年にも共通する学校全体の結果として捉え、今後の指導改善に生かしていきます。

1.教科に関する調査の結果概要及び改善の方向性

	本校の概要	課題	改善の方向
国語	〔知識及び技能〕の「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国平均を下回っているが、文章の特徴を理解する問題については、正答率が全国平均よりも高い。「情報の扱い方に関する事項」は、全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」は、全国平均を下回っている。「読むこと」は全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。 ・「話すこと・聞くこと」では、話の構成を考える問題の正答率が低いが、考えが伝わる表現の工夫を選択する問題は、全国平均よりも正答率が高い。 ・「書くこと」では、自分の考えが伝わるように記述する問題において、全国と同様正答率が低くなっている。 ・「読むこと」では、必要な情報を見付けることについて、正答率が低くなっている。 漢字を書く問題、短答式や記述式の問題が、正答率の低さが顕著である。	● 漢字のもつ意味や文章中での役割を理解し、適切に書いたり活用したりすること。 ● 収集した資料や情報から必要な要素を正確に抜き出し、相手に伝わる文章構成や表現を工夫して書くこと。 ● 話し手の意図や構成の工夫を捉えながら聞き、内容を整理して自分の考えをまとめること。 ● 文章の要旨を押さえた上で、自分の経験や考えと関連付けて論理的に記述すること。	○ 漢字の意味や文脈での正しい使い方を意識させ、文や文章の中で実際に正しく活用させる学習活動の充実。 ○ 目的や条件に応じて情報を選び出し、読み手を意識した書き出しや構成を考えて記述させる学習活動の充実。 ○ 構成の工夫の効果について話し合い、自分の発言や記述に置き換えて生かさせる学習活動の充実。 ○ 文章や資料を関連付けて読み取り、自身の体験や考えと比較しながら端的にまとめて表現させる学習活動の充実。

	本校の概要	課題	改善の方向
算数	【数と計算】 全国平均を下回っている。 【図形】 全国平均を下回っている。 【測定】 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。 【変化と関係】 全国平均を下回っている。 【データの活用】 全国平均を下回っている。 一方で、「単位量当たりの大きさを求める除法の式」について、意味を理解して判断する正答率が、全国平均を大きく上回っている。	● 四捨五入による概数の処理や、異分母分数の大小判断における根拠の言語化・記述 ● 立方体の体積を求める公式の適用(式化)や、直方体を構成する面の対応関係の正確な把握 ● 条件に合わせて必要な時間を組み立て・算出する処理 ● 割合(基準量の算出)の理解や、割合の関係を表す図の選択 ● 二次元の表からの条件に合う数値の読み取り、帯グラフのおよその割合把握、表の誤りを根拠とともに説明する記述	○ 計算手順の習得にとどまらず、「なぜその処理になるのか」という判断根拠や理由を文や言葉で明確に説明・記述する指導を強化する。 ○ 実物や展開図の操作・観察を通して面や辺の対応関係を視覚的に把握させ、公式の意味を捉えた上で正確に立式・計算する力を育てる。 ○ 問題の条件を数直線や図に整理・可視化し、目的の時間やスケジュールを順序立てて組み立て・算出する思考力を養う。 ○ 「もとにする量」と「くらべる量」の関係を線分図や関係図に正しく表す場面を増やし、基準量を捉えて立式に繋げる概念理解を深める。 ○ 二次元表やグラフから多角的に情報を読み取る経験を重ね、数値の矛盾や誤りを根拠(事実やデータ)とともに筋道立てて説明する表現力を高める。

2.児童質問調査の結果概要

学習・学習習慣に関すること

- ◎ICT機器を使って発表スライドを作成することができる。
- ◎学級会で互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。

- ▲算数が「得意」「好き」「授業の内容がよく分かる」が非常に少ない。
- ▲図や数直線が示された問題を解くときに、図が役に立つと感じていない。
- ▲将来、英語を使う生活や職業に魅力を感じていない。
- ▲分からないことがあったときに、自ら学ぶ方法が分からないと感じている。
- ▲国語の授業で学習したことが、将来、役に立つと感じていない。

- ➡仲間と協力して学級生活をより良くしようとする意識が育っている。
- ➡分かる・できる・楽しい授業作り、自律して学習を進める力の育成が必要。

学校生活・家庭生活・その他に関すること

- ◎「先生は自分のよいところを認めてくれている」という回答が多い。
- ◎「先生は、学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれた」という回答が多い。
- ◎毎日、同じくらいの時刻に起きている。

- ▲普段の読書について「全くしない」「学校図書館に全く行かない」
- ▲新聞を「ほとんど、または、全く読まない」
- ▲地域や社会をよくするために何かしたいという意欲が低い。
- ▲平日にスマートフォンやゲーム等で動画・SNSを「4時間以上利用する」
- ▲将来の夢や目標を持っている人数の割合が小さい。
- ▲自分にはよいところがあると思う人数の割合が小さい。
- ▲平日の授業外学習を「全くしない」「30分未満」
- ▲毎日朝食を食べている人数の割合が小さい。

- ➡一人ひとりに寄り添った指導への信頼感が高くなっている。
- ➡学習習慣が身に付いていない様子。さらに「読む」習慣の少なさとスクリーンタイムの長さが全国平均よりも突出している。子どものより良い成長のため、日常の習慣を改善することが必要。
- ➡朝食の欠食傾向が見られる。全国平均を大きく超えている。